

2024 年度キリングループ環境目標

1. 生物資源

- ・RA 認証紅茶農園^{※1}産原料、FSC 認証紙^{※2}、RSPO 認証パーム油^{※3}の使用継続・拡大
- ・スリランカの紅茶農園、ベトナムのコーヒー農園への RA 認証取得支援継続・拡大、スコアカード^{※4}の開発・展開
- ・ヴィンヤードでの自然共生サイト^{※5}・ネイチャーポジティブ^{※6}の維持・拡大、自然を基盤とした農業の解決^{※7}に向けた研究の開始・継続
- ・品質管理精度向上と需給予測精度向上による製品廃棄発生量の削減

2. 水資源

- ・渇水等リスクに備えた用水削減と適切な循環利用の維持・推進
- ・水源の森活動、清掃・美化活動の推進
- ・スリランカ紅茶農園内の水源地保全活動の継続

3. 容器包装

- ・3R (Reduce・Reuse・Recycle) + Renewable^{※8}に配慮した容器包装の開発・採用等の継続・推進
- ・プラスチックポリシー実現に向けた、資源循環^{※9}、ワンウェイプラスチック削減及び他の素材 (リサイクル樹脂、バイオマス) への代替、単一素材化、PET ボトルの持続性向上^{※10} 推進
- ・海洋流出プラスチックの削減推進 (啓発活動や海岸清掃活動等)

4. 気候変動対応

- ・SBT1.5^{※11} へ対応した GHG (温室効果ガス) の排出量削減
- ・RE100^{※12} の達成に向けた再生可能エネルギーの導入
- ・TCFD^{※13} にもとづくシナリオ分析結果 (農産物収量減、洪水/渇水リスクなど) への中長期的な対応検討及び集中豪雨、洪水等の設備対応、オールハザード型 BCP への反映

5. 廃棄物の発生抑制と再資源化

- ・工場での再資源化率、未使用の販促品・POP の廃棄物発生抑制の維持・推進
- ・廃棄物の安定処理委託先確保

6. マネジメントシステム改善と重大環境事故ゼロの継続

- ・工場間相互監査の継続、営業拠点等でのセルフチェックシートによる自主的運用への移行推進
- ・環境法令 (廃掃法、フロン排出抑制法、PCB 特措法、水濁法等) 順守体制の維持・向上
- ・廃棄物管理担当者への教育継続
- ・廃棄物処理委託先現地確認 (現地監査) の計画的な実施
- ・是正処置、予防処置の確実な実施と水平展開

7. 非財務情報開示への対応・環境コミュニケーションの推進

- ・TCFD/ISSB^{※14}、TNFD^{※15} 等が求める先進的な課題への対応と適切な開示による高い ESG 評価の獲得・維持
- ・商品を通じた課題解決とキリン・商品ブランドへの信頼感醸成につなげる外部コミュニケーション (若年層対応含む) 推進

以上の目標に関連する具体的な KPI である非財務目標及び CSV コミットメントの達成に向けて取組みを進める。

2024 年 1 月 1 日
キリンホールディングス株式会社 代表取締役社長

磯崎 功典

<注釈>

1. 生物資源

- (※1) RA 認証紅茶農園：スリランカのレインフォレスト・アライアンス（Rain forest Alliance）認証を取得している紅茶農園。
- (※2) FSC 認証紙：FSC（Forest Stewardship Council、森林管理協議会）の基準を満たしていると認められた紙を使っている紙製容器包装、及び事務用紙。
- (※3) RSPO 認証パーム油：RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil、持続可能なパーム油のための円卓会議）の基準を満たしていると認められたパーム油。Book&Claim に対応。
- (※4) スコアカード：原料生産地の持続可能性を向上させる再生型農業への移行を支援するツール。
- (※5) 自然共生サイト：国連生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）で採択された各国の陸・海で 30% を自然保護区域にする新目標達成のために環境省が創設した認証制度。
- (※6) ネイチャーポジティブ：2021 年 G7「自然協約」で合意された、「2030 年までに生物多様性の損失を止めて反転させる」目標。
- (※7) 自然を基盤とした農業の解決：国際自然保護連合（IUCN）が提唱した、気候変動を含む社会課題に自然を活用して解決する考え方。ヴィンヤードでは、畑への GHG 固定、病害の早期検知等の農研機構との共同研究を実施予定。

3. 容器包装

- (※8) 3R（発生抑制・再使用・再生利用）+ Renewable（持続可能な資源）
- (※9) PET ボトルの資源循環推進（使用済み PET ボトルの効率的な回収とリサイクル樹脂の活用と、これに向けたケミカルリサイクル事業の推進）
- (※10) PET ボトルの軽量化、及び石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来の PET ボトル樹脂導入。

4. 気候変動対応

- (※11) SBT1.5：Science -based Target（産業革命前からの平均気温の上昇を 1.5℃未満に抑え、2050 年にはカーボンネットゼロとする目標）
- (※12) RE100：Renewable Energy 100%（自社の使用エネルギーを 100%再生可能エネルギー起源にする目標）
- (※13) TCFD：Task Force on Climate-related Financial Disclosures（気候関連財務情報開示タスクフォース）

7. 環境コミュニケーションの推進

- (※14) ISSB：International Sustainability Standards Board（国際サステナビリティ基準審議会）
- (※15) TNFD：Task Force on Nature-related Financial Disclosures（自然関連財務情報開示タスクフォース）

以上

【キリングroup プラスチックポリシー】

(1) PET ボトルの資源循環を推進します。

キリングroupが提供しているプラスチック容器包装等のほとんどは飲料ボトル用 PET 樹脂が占めており、その一部にリサイクル樹脂を使用しています。キリングroupは、PET ボトルの資源循環を推進するため、日本国内におけるリサイクル樹脂の割合を 2027 年までに 50%に高めることを目指します。

また、PET ボトルの資源循環を推進するためには、良質な使用済 PET ボトルを効率的に回収することが不可欠です。キリングgroupでは、国や地域、業界団体等と協働しながら、良質な使用済 PET ボトルの効率的な回収・利用システムの構築を積極的に進めていきます。

(2) ワンウェイプラスチック※2 の削減および他の素材への代替に努めます。

プラスチックごみの多くは、ワンウェイプラスチックと言われています。キリングgroupは、グループ各社が提供するワンウェイプラスチックの削減に努めるとともに、他の素材への代替にも取り組んでいきます。

※2 再使用を前提としない、一度だけしか使われない使い捨てのプラスチック。

(3) PET ボトル原料の持続性向上を目指します。

キリングgroupでは、これまでも環境負荷軽減の観点から PET ボトルの軽量化を継続的に進めてきました。今後もより一層の軽量化を目指していきます。

また、PET ボトル原料の持続性向上のため、石油資源からの脱却に向けた非可食性植物由来の PET ボトル樹脂導入の検討も進めていきます。

上記に加え、プラスチックの資源循環を推進していくための啓発活動や海岸清掃活動等へも積極的に参画していきます。

2019 年 2 月策定

【キリングgroup持続可能な生物資源利用行動計画】

◆紅茶

キリンビバレッジ株式会社が使用する紅茶葉の主要な原料生産地であるスリランカで、紅茶農園の持続可能性向上を目指します。

・調達先のスリランカの紅茶農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。

※1

・レインフォレスト・アライアンス認証マーク付きの通年商品で認知度を向上させます。

・スリランカの紅茶農園にある水源地を保全します。

◆紙

2020 年に達成したキリンホールディングス株式会社、キリンビール株式会社、キリンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社での FSC 認証紙または古紙の使用比率 100%を継続し、海外を含めたグループ会社全体に拡大していきます。

・紙製容器包装※2 は、2030 年までに持続可能性に配慮したことが確認された紙※3 を 100%使用します。※4

・その他の紙は、持続可能性に配慮したことが確認された紙、または古紙を使用します。※5

◆パーム油

国内事業が 1 次原料および 2 次原料として使用しているパーム油について、RSPO 認証証明取引を利用して 100%対応します。

・1 次原料は RSPO の認証クレジット※6 を利用して対応します。2030 年までには RSPO 認証パーム油※7 の調達を

開始し、順次切り替えていきます。

・2次原料は、RSPO の認証クレジットを利用して対応します。RSPO、サプライヤー、NGO およびさまざまなステークホルダーと連携し、調達先が RSPO 認証パーム油を原料として使用できるように取り組みを行っていきます。

◆コーヒー

キンビバレッジ株式会社が使用するコーヒー豆の主要な原料生産地であるベトナムで、コーヒー農園の持続可能性向上を目指します。

・ベトナムのコーヒー農園のレインフォレスト・アライアンス認証取得を支援し、認証取得農園数を増やしていきます。

・ベトナムのコーヒー農園の保水能力を向上させます。

◆大豆

キンビール株式会社が使用する大豆およびその加工品※8 において、持続可能性の高い農園の大豆を使用していきます。

・調達先の大豆農園を特定します。

・特定した大豆農園の持続可能性を確認します。

※1：具体的な目標は CSV コミットメントで定めます。

※2：限定商品、少量品種、特殊な形状、輸入品、法によって規制された商品等は除きます。

※3：FSC 認証紙を優先し、困難な場合は FSC 管理木材（コントロールウッド）、PEFC 認証(持続可能性が確認された地域に限る)、

キリングroup持続可能な生物資源調達ガイドラインに適合する紙の順とします。また認証等がない紙を使用する場合は、調達先へのアンケート等によって、持続可能性への配慮を確認します。

※4：対象事業会社は、キンホールディングス株式会社、キンビール株式会社、キンビバレッジ株式会社、メルシャン株式会社、協和キン株式会社、協和発酵バイオ株式会社、Lion Pty Ltd、小岩井乳業株式会社とします。

対象となる容器の種類や達成年等は CSV コミットメントで定めます。

※5：対象事業会社は※4 の対象事業会社に加えて、キリングroupロジスティクス株式会社、キンシティ株式会社、Interfood Shareholding Company、Myanmar Brewery Ltd、Four Roses Distillery, LLC とします。

具体的な目標は各社で定めます。

※6: Book and Claim 方式

※7：IP (Identity Preserved) 、SG (Segregation) 、MB (Mass Balance) のいずれかに適合するもの

※8：大豆タンパク

2013年2月策定 2021年7月改訂

【キリングループ持続可能な生物資源調達ガイドライン】

目的

「キリングループ生物多様性保全宣言」に基づき、「生物資源の持続可能な調達」を続けるために、基本的な考え方を示します。

適用範囲

キリングループが日本国内で調達する生物資源において、リスク評価により森林の違法伐採や環境破壊等のリスクを伴うと判断した特定のものについて適用します。

持続可能な生物資源調達ガイドライン

キリングループは、対象とすると決めた生物資源について以下の原則のもとに調達を実施します。

1. 違法に森林を伐採して造成されたプランテーション、もしくは植林地に由来する原料ではないこと、また伐採にあたって原木生産地の法令を守り、適切な手続きで生産されたものであることが確認されたもの
2. 信頼できる第三者によって認証された農園・森林等に由来するもの
3. 環境破壊などを行っていると判断されている事業者が生産したものではないもの※1

実施と運用に関して

上記のガイドラインは、生物資源が抱える課題や地域による調達事情がそれぞれ異なることを考慮して、調達する産物の生物多様性上のリスクの評価にもとづいて定期的に見直しを行うとともに、各国または地域の特性を勘案し、別途行動計画を定めて段階的に実施することとします。

取り組みにあたっては、サプライヤーおよび専門家・N G Oなどのステークホルダーと協力し、原料生産地で働く人々が生物資源の持続性を考慮した生産へ移行する支援も考慮しながら、長期的視点で取り組みを進めます。

情報公開と外部コミュニケーション

取り組みの進捗状況は、サステナビリティレポートや Web 等を通じて、透明性を確保しながら公開するとともに、適切な外部コミュニケーションにより持続可能な生物資源の利用に向けたお客様やパートナー・社会の理解を促進します。

2013年2月28日

注釈

※1 現在のところ FSC の Policy for the Association of Organization with FSC を参照とします。

【キリングroup生物多様性保全宣言】

キリングroupは、自然の恵みを原料に、自然の力と知恵を活用して事業活動を行っており、生物多様性の保全は重要な経営課題であると認識しています。将来に渡って「食と健康」の新たなよるこびを提供し続けるために、キリングgroupは、生物多様性保全のための様々な活動を積極的に行います。

生物多様性に配慮した資源利用を推進します

世界中の人々が自然の恵みを持続的に享受できるように、生物多様性に配慮した資源の利用を事業活動全体において推進します。

キリングgroupの持つ技術を活かします

「食と健康」の新たなよるこびを提供する企業として、事業活動を通じて保有する技術の応用により、生物多様性の持続可能な利用および保全に貢献します。

ステークホルダーと連携して取り組みます

従来より取り組んでいる環境保全活動に生物多様性の視点を加え、お客様や地域のパートナーと連携し、生物多様性保全に継続して取り組みます。

条約や法令に適切に対応します

生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、生物多様性の恵みが世界中で活かせるように努力します。

2010年9月 策定

【キリングgroup遺伝資源アクセス管理 原則】

■ 背景と目的

1992年の地球サミットで気候変動条約と双子の条約として締結され 1993年末に発効した生物多様性条約（Convention on Biological Diversity：以下 CBD）では、遺伝資源を含む天然資源に対する各国の主権的権利を認め、遺伝資源の利用に際しては資源提供国の事前同意を得ること、遺伝資源の利用から生ずる利益は公正かつ衡平に配分することを定めている。

キリングgroupは、生物多様性に係わる条約や法令を遵守し、適切に対応することにより、事業における遺伝資源の利用のリスクを低減するとともに、適切で持続可能な生物資源の利用による研究開発の促進と事業の発展を目指す。

■ 原則

1. 生物多様性に関する国際的な合意を尊重する。
2. 遺伝資源へのアクセスは資源提供国の事前同意を得て行い、
来歴不明の遺伝資源の持ち込み及びその利用は、行わない。
3. 遺伝資源の利用は、これより生ずる利益の公正かつ衡平な配分を含め、
国際条約に従い適切に管理する。

以上

2011年5月9日 策定

【エコ・ファーストの約束】

詳細は、エコ・ファースト推進協議会の下記サイトに掲載しています。

[加盟企業のエコ・ファーストの約束エコ・ファースト推進協議会 \(eco1st.jp\)](http://eco1st.jp)

【神戸工場行動指針】

神戸工場はグループ環境目標及び、行動指針に基づき環境保全活動を次の通り推進します。

- ① 温暖化ガス（CO₂・フロンガス等）と用水使用量の削減に努めます。
- ② 廃棄物の発生量削減と分別の徹底及び、法令遵守を含めた工場で働くメンバーへの環境教育を継続します。
- ③ 水源の森活動などのCSV活動を通じて、CSV先進企業を目指し地域の環境活動に貢献します。

2024年1月1日

神戸工場長

伊藤 康喜